

「住民の自主的なまちづくり」に向けた取組みへの支援



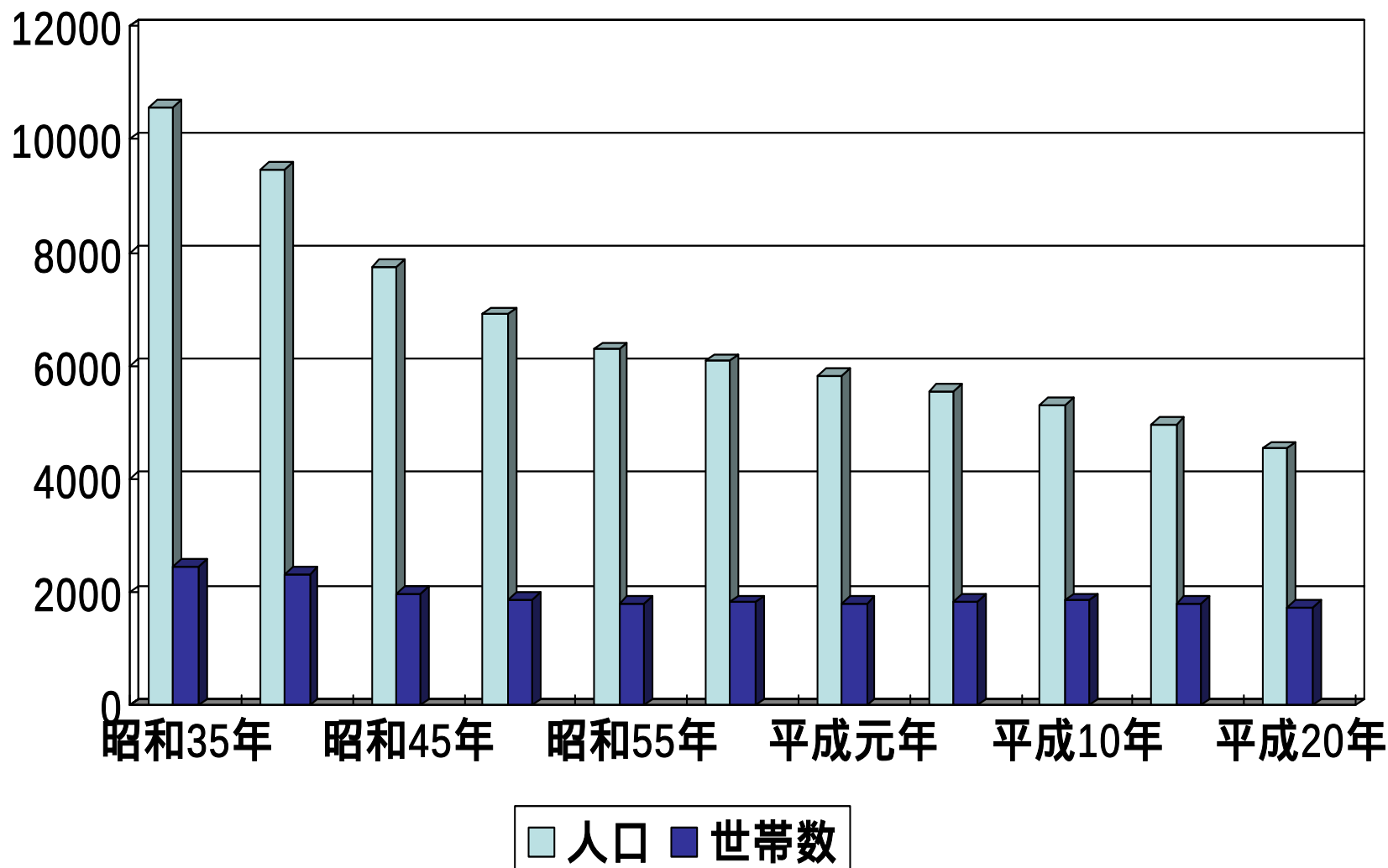
“よろず相談 信用金庫”

但陽信用金庫

写真：朝来市生野町の町並み



生野町の世帯数及び人口推移



生野銀山産業遺産群

最盛期の生野鉱山本部



菊の御紋の門柱



コンコウショ
フランス式建築様式による旧混汞所





トロッコ道

まち並み 井筒屋



KOUSEKI NO MICHU

「鉱石の道」と名付けられた、明延鉱山・神子畑鉱山・生野鉱山の3つを結ぶ鉱石輸送の専用道路は、生野鉱山本部より生野鉱山寮馬車道(銀の馬車道)へ繋がりが、わが国の鉱業発展に大きく貢献しました。

明延鉉山

神子畑鉾山

鉦石の道

生野銀山

旧生野鉾山本部

銀の馬車道

⑮生野鉱山索道馬車道
(銀の馬車道)

飾磨港

「銀の馬車道」

GIN NO BASHAMICHI

「銀の馬車道」は、明治時代の初めにフランス人技師の指導により造られた生野鉱山と師磨港(姫路市)を結ぶ道路で、生野鉱山の近代化開発に必要な物資を運ぶ「日本初の高速産業道路」です。

馬車道完成を記念して建てられた
「馬車道修築碑」(姫路市砥掘)

地域活性化に向けてのプロジェクト

- 人口が4,500人(平成20年10月末) まで減少
- 産業遺産や歴史・文化を活用した地域の活性化
(開坑1200年記念祭・「生野ひいきの会」の立上げ)
- 生野を起点とした、「銀の馬車道」や「鉱石の道」プロジェクト推進
- 山陽から山陰にかけての広域観光資源として産業遺産ツーリズムの展開が期待

当金庫のコンセプト

「地域資源」を活かした、面的・持続的な地域社会活性化への
取組み支援

- ・「住民と行政」との連携に向けたコーディネーター役
- ・「住民の自主的なまちづくり」に向けた 支援

< 生野ひいきの会 > 設立

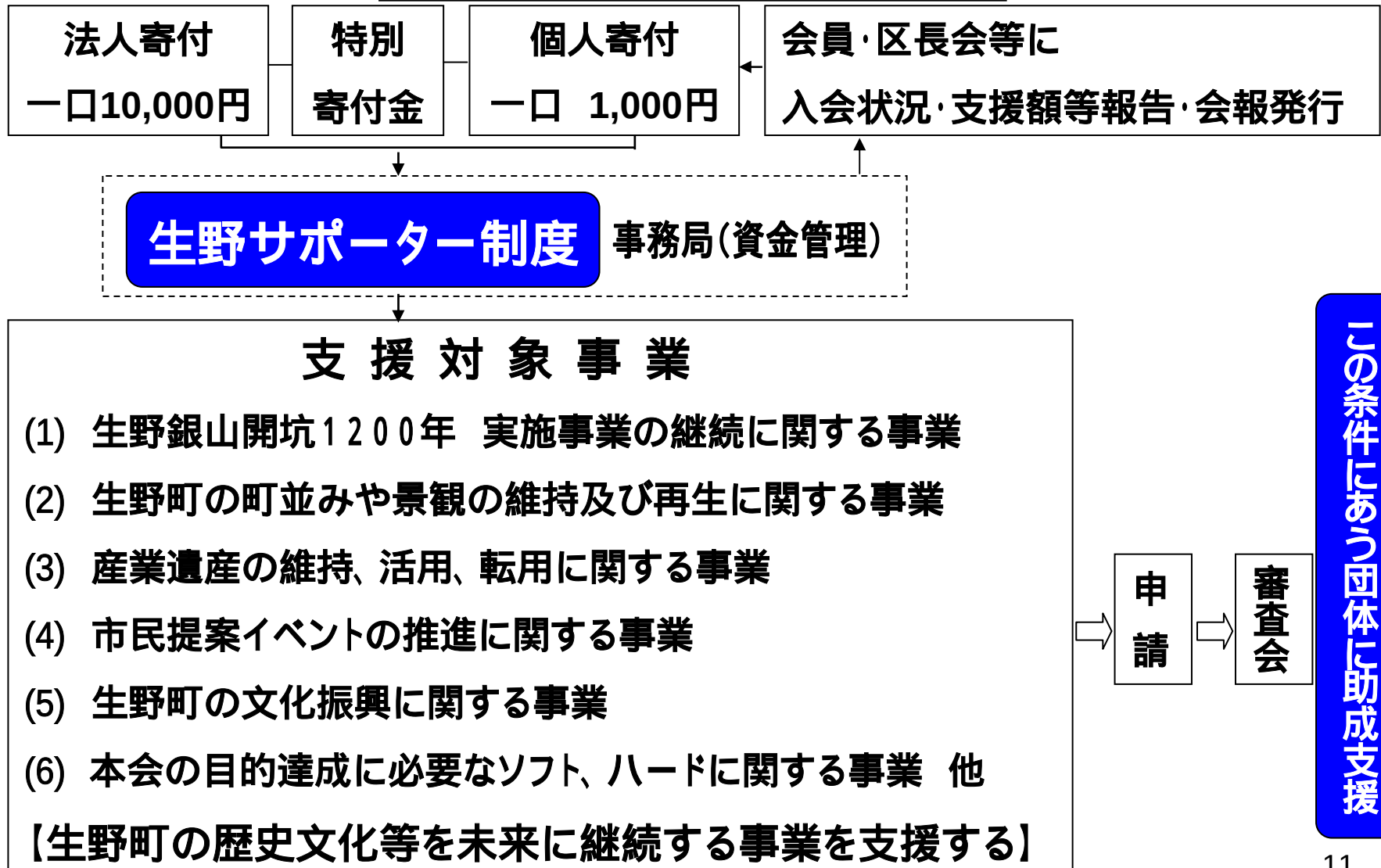
～ 地域のサポート～ 「生野ひいきの会」の概要

- 設 立 平成19年12月1日
- 会 長 当金庫理事長
- 事 業
 - ・ 生野銀山開坑1200年記念事業の継続事業への支援
 - ・ 生野町の自然、町並みや景観の維持への支援
 - ・ 産業遺産の維持・活用・転用に関する事業他への支援

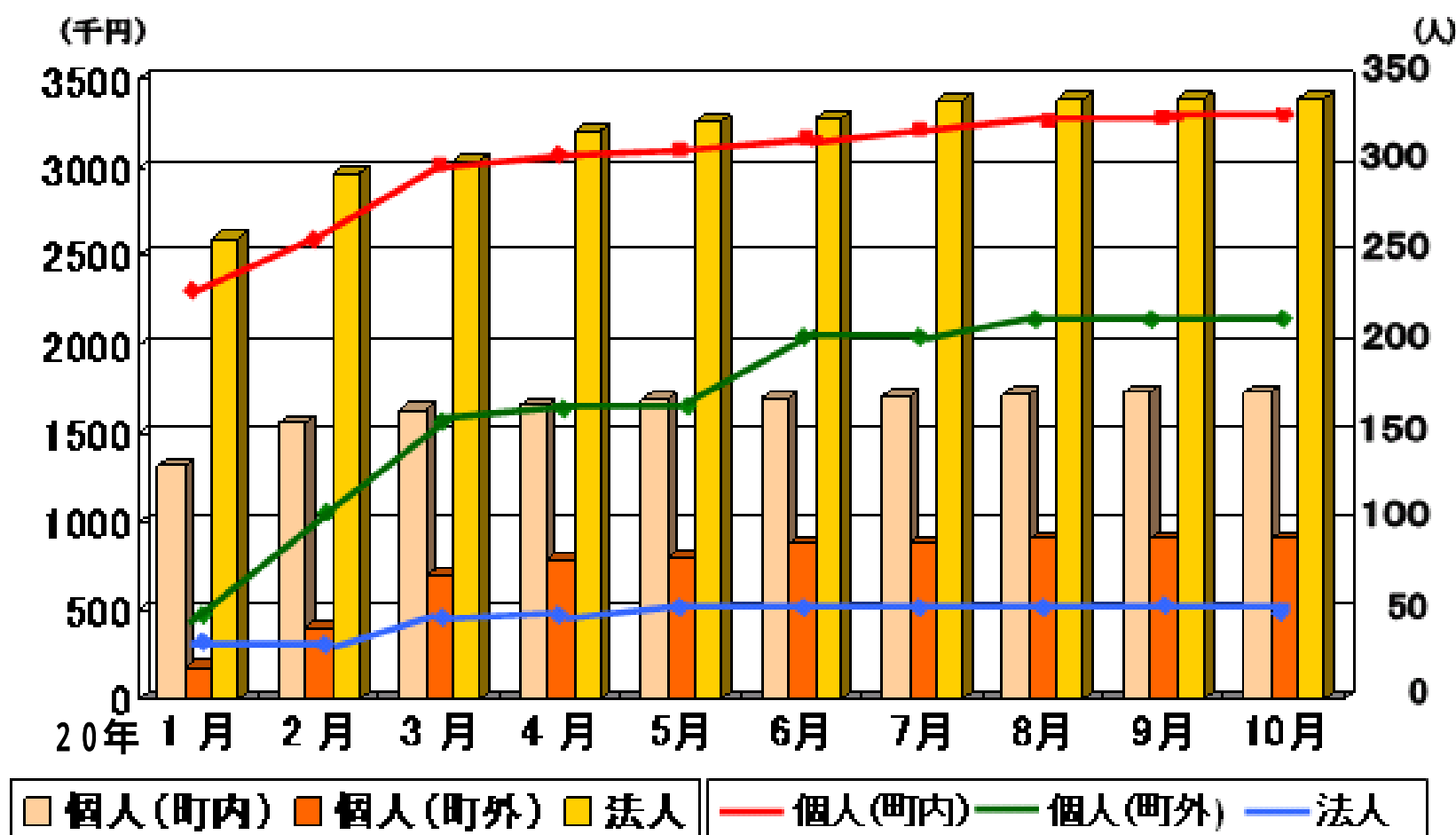
地域サポーター制度『生野ひいきの会』 基 本 理 念

1. 「官から民の時代」の到来による「行政頼みの
体質からの脱却」
2. まちづくりは、“小さな動機付け”から
3. 一人ひとりが元気なまち。老若男女が共生し、
思いやりを持って支え合えるまち
4. 生野に縁やゆかりのある方の想いを大切に

支援事業のシステム



入会状況



支 援 事 業

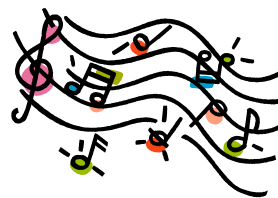
20年 3月	1件	・銀谷のひな祭り
4月	4件	・第9回生野銀山へいくろう祭り ・六区生野音頭伝承事業 他
5月	4件	・銀谷のわらべ ・銀谷ぼっぼ祭り 他
6月	2件	・七夕コンサート 他
7月	2件	・第3回新町河川公園祭り ・銀谷の七夕
8月	10件	・IKUNO MUSICA ・生野夏物語 他

9月	5件	・井筒屋と十五夜の夕べ ・森林ボランティア活動支援 他
10月	2件	・「なにくそ限界」まちづくりフォーラム 他
12月	3件	・生野イルミネーションロード ・クリスマスコンサート ・もち花づくり

21年1月～3月支援予定

10件支援

- ・「一里塚」発行事業
- ・ゑびす祭
- ・ハープセミナー・コンサート
- ・井筒屋の豆まき 他



合計 43件 444万円 予定

【銀谷の】
セタ祭り



銀谷のひな祭り



もち花づくり



イルミネーションロード



「生野夏物語」



取組みにあたって工夫した点

生野区長会と制度の重要性に対する認識の共有

- ・ 区民への説明と理解
- ・ 入会率 30 % を目標

企業に対して協力・支援要請

- ・ 上場会社を含む町内及び工業団地への進出企業

審査会の特徴と審査基準の単純化

- ・ 地元の有識者および若者の意見を重視

町外在住の生野出身者や生野とゆかりのある方への入会勧誘

- ・ 親戚、知人、友人等の紹介依頼

今後の取組み課題と役割

「生野ひいきの会」活動の充実

- ・ 新規加入者の増加・町内加入率の向上対策
- ・ 現会員の継続加入率の向上
- ・ 会員としての魅力の向上
- ・ 支援事業内容の浸透

「点」としての地域活性化から「面」としての地域経済の活性化への支援

- ・ 各地域での「ひいきの会」立上げ支援
- ・ 地域金融機関として「住民と行政」とのコーディネーター役機能の発揮

「よろず相談 信用金庫」

「育ててもらった この街に
いろんな夢を いろんな力を」

生野町で創業し、地域の人々に支えられ、現在の当
金庫がある。その感謝の気持ちを、あらゆるサービス
で還元して行く。それは金融業務だけでなく

「よろず相談 信用金庫」を目指すことである。



“よろず相談 信用金庫”

但陽信用金庫

